自己点検・評価での課題への対応

部局等：ライフサイエンスイノベーションセンター

自己点検･評価での課題等 （　令和5年1月実施）	対応策･対応状況･部局長の意見等	対応策に対する進捗状況
基準番号：１－１ ライフセンターのミッション、設置目的等は生命科学複合研究教育センターのもの（平成 17 年度制定）を踏襲し、平成 28 年度に定められたものである。他方、福大ビジョンの制定、第 3 期中期計画から第 4 期中期計画への移行など、センターを取り巻く状況も大きく変化推移している。そこで、改めて、ライフセンターのミッション、設置目的等の見直しが必要である。	指摘のように、ライフセンターのミッション、設置目的等（平成 28 年度制定）は、平成 17 年度に制定した生命科学複合研究教育センターのものを基本的に踏襲しており、その内容等は現在でも本学の目的等に沿ったものになっている。しかしながら、新たに制定された福大ビジョンの実現並びに第 4 期中期計画の達成に向けてセンターが新たな役割を担うことも考えられる。そこで、センター運営委員会で、一部修正の有無を含めライフセンターのミッション、設置目的等について再確認することとしている。	福大ビジョン 2040 と第 4 期中期目標・中期計画に合わせて、本センターのミッションと目的をアップデートすることとしている。現在、運営委員会で検討を進めている。
基準番号：２－１ センター運営委員会の業務に「センターの評価に関すること」が挙げられているが、自己点検評価においては、実施組織と評価組織は別に設置することが望ましい。そこで、センターの自己点検・評価を担当する「自己点検評価委員会」の設置が望ましい。	指摘のように、内部質保証の観点から、本来、自己点検評価においては、実施組織と評価組織は別組織であることが望ましい。そこで、今後のセンターにおける自己点検を実施する委員会として「自己点検評価委員会」を設置する。これに伴い、規程等の改正をすることとしている。	センターにおける自己点検を実施する委員会として「自己点検評価委員会」を設置する。これに伴い、規程の一部改正、自己点検・評価委員会要項の制定を行う。令和６年４月１日施行を予定している。

自己点検・評価での課題等 （　令和5年1月実施）	対応策・対応状況・部局長の意見等	対応策に対する進捗状況
基準番号：２－３ ライフセンターの活動をさらに展開するためには、ライフサイエンスに限らず異なる研究分野の教員の参加が望まれる。	ライフセンターには、学部の枠にとらわれることなく、ライフサイエンス及び関連する広い分野に関与する教員が学内より広く集結している。他方、ライフサイエンスに限らず異なる研究分野の教員の参加によって、これまでにない視点でライフセンターの活動が展開できることが期待できる。そこで、従来から積極的に行っている「参加教員募集」において、「ライフサイエンスに限らず異なる研究分野の教員の参加を期待する」ことなどを明記し、より積極的な募集活動を実施する。	令和５年４月 17 日に、教員宛ての参加教員募集通知に「ライフサイエンスに限らず異なる研究分野の教員の参加を期待する」と記載し通知した。 また、ライフセンター主催の研究交流会において、教育・人文社会系の教員の参加が著しく少ないため、令和５年度研究交流会の招待講演にて、教育・人文社会系から講演いただくこととしていたが、残念ながら実現できなかったため、今後も積極的に異分野からの参加も後押ししていく。
基準番号：　２－３ 研究成果による社会貢献をさらに発展させるには、ライフセンターと関係するステークホルダーの間を繋ぐ役割の人材のさらなる関与が望まれる。	現状では、ライフセンターにそのような役割を担う人材を登用することはできないが、研究ニーズ・シーズのマッチングに精通している産学連携本部に所属する URA の皆さんとこれまで以上に連携・支援いただくことを考えている。そのために、URA の皆さんにはセンターの活動状況等の情報を今まで以上に提供し、さらに URA の皆さんからはセンターに係る研究ニーズ・シーズのマッチング、研究ニーズの紹介など支援いただきたい。	学外との研究シーズ・ニーズのマッチング向上を図るため、研究ニーズ・シーズのマッチングに精通している産学官連携本部所属のＵＲＡの方に、令和４年度末に実施したセンターのホームページの改修にもご協力いただいた。また、令和５年度の研究交流会では樋口ＵＲＡによる知財に関する講演を行った。 今後もＵＲＡの皆さんとの連携・支援を継続していけるよう、これまで以上に情報提供を行い、研究成果による社会貢献をさらに発展させたい。

自己点検・評価での課題等 （　令和5年1月実施）	対応策・対応状況・部局長の意見等	対応策に対する進捗状況
基準番号：３－１，―２ 社会貢献活動について更なる発展のため、参加された高校生の進路状況を適切に把握するなど、組織的な調査を実施する必要がある。	ライフセンターでは、これまで、高校生を対象とした、直接ライフサイエンスに触れることができる様々な教育プログラムを実施している。その際、プログラム終了時には、参加者にアンケート調査を実施し、プログラムの改善に資している。しかしながら、参加者の進路状況について、これまで組織的な調査は実施していない。そこで、参加者及び引率の高校教員に対して、進路状況などについて、情報提供をお願いすることにしてはいかがか。その際、具体的な調査方法について、副センター長を中心に検討することとしている。	今年度末に進路調査を行うこととした。 調査対象は、その年度に高校を卒業する参加者とし、調査依頼先については検討中であるが、適切に調査する。
基準番号：　３－５ ライフセンターで「成果を広く社会に発信する」ことも目的としており、今後、社会からのニーズに対応できるよう、成果の情報発信を更に強化する必要がある。	成果の社会への情報発信に係る重要なツールがセンターHP である。そこで、令和４年度中に、より分かりやすく、使い勝手のよい HP に改修し、特に「研究シーズ集」を魅力あるものとすることとしている。	令和４年度末に、ライフセンターホームページの研究シーズ集に係るページを改修した。特に、外部からのマッチング向上を図るため、ページ内の検索方法や、レイアウトを一部改修した。現在施行中であり、必要に応じて改良していくこととしている。

自己点検・評価での課題等 （　令和5年1月実施）	対応策・対応状況・部局長の意見等	対応策に対する進捗状況
基準番号：５－１ ライフセンターの研究拠点の機能をさらに向上させるためには、センター実験室に備えた共用実験機器等の更新や新規導入が不可欠であり、そのための経費が必要である。	現在、ライフセンターに措置されている経費の中に、センター実験室に備えた共用実験機器等の更新や新規導入のための経費は計上していないが、年度末に、予算施行状況を見ながら、余剰が生じた場合には必要な共用実験機器等の更新や新規導入を行っている。しかしながら、共用実験機器等の更新、特に新規導入には多大な経費が必要であり、今後、ライフセンターとして研究テーマを定め、それに基づき、学内外の様々な研究資金の積極的な獲得を検討する。	本年度は、予算施行状況を見ながら、余剰が生じた場合には必要な共用実験機器等の更新や新規導入を行うこととしている。本年度末に、センター実験室を使用しているセンター参加教員に問い合わせ、可能なものの更新・新規導入を図ることとしている。 なお、ライフセンターとして定めた研究テーマに基づく学内外の様々な研究資金の積極的な獲得について、運営委員会で検討を継続することとしている。
基準番号：６－１ ライフセンターでは、設置目的に沿った活動を適切かつ安定して遂行できるたけの財務基盤を有しており、毎年度一定額が維持されているが、センターのミッションの実現に向けて、研究助成や人材育成などをさらに展開するためには財政基盤の拡大が不可欠である。	大学当局に様々な機会を利用して、予算措置の拡大を働きかけることは言うに及ばないが、その前提として、ライフセンターの成果・効果を今まで以上に発信し、その必要性の周知を図る。また、ライフセンターとして研究テーマを定め、それに基づき、学内外の様々な研究資金の積極的な獲得を検討する。	ライフセンターの成果・効果を今まで以上に発信するため、発信ツールとしての HP の改修、研究交流会の拡大（両キャンパスで実施）などを実施した。 さらに、ライフセンターとして定めた研究テーマの基づく学内外の様々な研究資金の積極的な獲得について、運営委員会で検討を継続することとしている。